



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

# Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 021 Jan 31, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

**FAX番号 03-5542-2912**

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。  
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。  
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

## BSE関連ニュース

### ●成熟度による牛の月齢判定方法に関する日米専門家会議開催される

1月19日、東京において、かねて米国政府が提案していた枝肉の成熟度による牛月齢の判定方法に関する技術専門家会議が開催された。日本側からは農林・厚労省関係者と専門家が参加し、アメリカ側からは農務省ランバート農務次官補等が参加した。

これに向け、米国政府は独自の調査報告書を日本側に提出していたが、会議上、統計的観点から成熟度A40が日本の規定する20カ月齢以下の牛であることを明確に示していると報告。A40を月齢判定の基準の一つとして提案した。

日本としては、アメリカ側からおって提出される追加情報を待ち、2月には何らかの結論を出す模様。

アメリカの業界ではこの件を冷静に受け止め、生産現場での対応がどこまで可能かを検討している。ランバート氏によれば、A40を基準設定とすることで約9%の肉用牛が対象となり、現在進行中の個体、群など出生記録による方法も含めると、25~35%がカバーされるのではないかと予測している。

※2005年1月27日 米国食肉輸出連合会

## 米国食肉市場ニュース

### ～ 牛肉 ～

牛肉市況(1月10日～14日)

●週間と畜頭数：58.7万頭(前年比2.0%減)。

●肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：

主要5市場では平均91.60ドル(前週比3.70ドル高)。

枝肉価格は平均145.01ドル(同5.46ドル高)。

●牛肉価格：歩留まり等級3(YG3)のチョイスは154.14ドル(前週比11.39ドル高)。YG2~3のセレクトは148.11ドル(同12.66ドル高)。

主要12州<sup>1)</sup>のフィードロット内頭数<sup>2)</sup>、前年比微増  
(2005年1月1日現在)

	2005年 <sup>3)</sup>	対前年
12月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4)</sup>	11,334	100.0%
12月導入頭数	1,834	105.0%
12月出荷頭数	1,777	102.0%
12月のその他の消失 <sup>5)</sup>	92	102.0%
1月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4)</sup>	11,309	100.0%

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	1月10日～1月14日
400～500	121.00～140.50
500～600	108.50～125.00
600～700(子牛)	100.00～111.50
700～800(子牛)	100.50～103.00
600～700(若齢牛)	107.00～112.25
700～800	102.00～106.50
800～1000	98.50～105.75

※2005年1月14日 Cattle Outlook  
(Glenn Grimes & Ron Plain)

注：1.アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン  
2.収容頭数1,000頭以上。  
3.単位：1,000頭。  
4.穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。  
5.死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。  
※2005年1月21日 Cattle On Feed(米国農務省)



米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

●パッカー、赤字くい止めに生産を大幅削減

大手パッカー各社は30年来最悪の赤字を埋めるため、業界史上先例のない大幅な生産削減をしている。肥育牛の供給不足、予想外に低い牛肉需要、加えて輸出市場の閉鎖がパッカーを窮地に追い込んでいる。供給不足のため、パッカーは100ポンド当たり85～90ドルの高値で肥育牛を買い付けているが、国内需要が弱いため、コストがカバーできる140ドル(チョイス100ポンド相当価格)以上の卸価格で売るのは困難な状況だ。回復の見通しもない中、ここ6カ月間で赤字は3億ドルを超える可能性もある。

大手パッカーには、従業員にある程度の賃金を支払って有給休暇をとるよう奨励し、状況が改善したらすぐ呼び戻せる体制下、一部の工場の生産を一時停止しているところもある。輸出再開が急がれるが、新任のジョハンス農務長官は、指名承認の公聴会で「優先して取り組む」と述べている。

※2005年1月10日 Cattle Buyers Weekly

●生体牛価格、最近13カ月で最高値

冬場の寒さの中、パッカー各社が供給確保に走ったため、生体牛価格はここ13カ月で最高値に達した。サザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)では前週より4～5ドル高の100ポンド当たり92ドル前後で売買された。生産削減で仕入れ不足が生じたため、パッカーの牛肉卸値は劇的に上昇した。

※2005年1月17日 Cattle Buyers Weekly

米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況(1月10日～14日)

●週間と畜頭数：204.5万頭(前年比2.8%減)

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は前週比1.5ドル高から3.5ドル安の間で推移。

主要市場における100ポンド(約45kg)当たりの最高価格(US\$)

185ポンド物(約83.5kg)の枝肉平均価格(US\$)

	1月14日		1月14日
ペオリア	46.00	東部トウモロコシ地帯	67.09
セントポール	46.50	西部トウモロコシ地帯	72.03
スーフォールズ	—	アイオワ・ミネソタ	72.09
ミズーリ中央部	48.75	全 国	69.88

※2005年1月14日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

●2004年1～11月期、豚肉輸出は各国向けとも好調で、前年同期比26.6%増。日本向け輸出は1～7月の6.3%増から、8月・18%、9月・29.6%、10月・34.6%、11月・40.5%と伸びて、11カ月間では13.4%増を記録。一方豚肉輸入は同期間の前年同期比で7.4%減少した。

※2005年1月14日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

業界ニュース

●米国農務省・保健福祉省、新食生活改善指針を共同発表

5年ぶりに改定された指針は、健康で長生きするための科学的根拠に基づくアドバイスとして、摂取カロリーを減らし運動量を増やすことをさらに強調している。塩、砂糖、脂肪を減らし、果物、野菜、低脂肪乳製品、穀物をはじめ、赤身や低脂肪で脂身のない肉、鶏肉などの「栄養価の高い食品」をバランスよく食べるよう奨めている。ブッシュ大統領が唱える米国健康増進プロジェクトの柱として、今後はこの指針に沿って政府の食糧計画や栄養教育が展開される。指針は消費者団体や食品業界の各方面でも好評。



**業界ニュース**

現在、アメリカ人のほぼ2/3が太り過ぎか肥満で、5割以上の人が運動不足といわれている。指針では体重管理、骨と筋肉の増強、バランスよい栄養摂取によって慢性病を防止し、無理のない目標を達成するためのアクションステップを紹介。体重管理、運動、食品安全等9テーマに関連する41項目のアドバイスのうち、23は一般人向け、18は専門化対象になっている。指針と一般向けパンフレットは以下のサイトで入手可能。 [www.healthierus.gov/dietaryguidelines](http://www.healthierus.gov/dietaryguidelines)

※2005年1月12日 米国農務省ニュースリリース&2005年1月14日 Meatingplace.com

●**新農務長官、宣誓就任**

ネブラスカ前州知事ジョハズ氏(共和党)は、公聴会での指名審議、承認を経て、1月21日、第28代の農務長官として正式に就任した。アイオワ州の酪農家に生まれ、少年時代から農業に深いルーツを持ち、自らを「農業に激しい情熱を持つ農家の息子」と呼んでいる。2001年から多難な4年間長官を務めた前任のベネマン氏は、国連児童基金(ユニセフ)事務局長就任が内定している。

※2005年1月21日 米国農務省ニュースリリース&2005年1月19日 Meatingplace.com

●**スミスフィールド、脂肪の多いフレッシュポークをテスト中**

同社は、テキサスとメイン州で、炭水化物食を控えている人向けに、脂肪が多めの新しい豚肉をテスト販売を始めた。これは同社が10年以上前に開発したリーン・ジェネレーション・ポークのラインとは逆行する動きだが、ここ4年をかけて「若干脂がのって風味がよい、昔の豚肉により近いフレッシュポーク」になる新品种の豚を開発してきた。業界アナリストは、「消費者の嗜好の重要な変化にというより、たまには脂ののった風味のある豚肉を食べたい人達に対応した動き」と分析している。低脂肪製品は1990年代後半に大人気になったが、プロのシェフと消費者に、脂肪分が少なく、すぐばさついてしまう豚肉の調理方法を覚えてもらうのに何年もかかった。米国食品栄養学会が実施した消費者調査では、「健康より何より味が決め手。美味しくないと健康食品は好まない」という結果が出ているという。

※2005年1月16日 Meatnews.com

●**ナショナル・ビーフパッカーズ、減収減益**

同社は、第1四半期(2004年11月27日)の売上は前年の10.58億ドルから10.51億ドルとわずかに減少し、当期純損失は440万ドル(前年同期純利益1,900万ドル)と発表した。不振の主な原因は、カナダからの輸入と日本向け輸出の禁止であるとしている。カナダは100万頭分に相当する低価格のボックスビーフを米国に出荷しているが、カナダ国内では依然150万頭の肉牛が行き場を失い、結果、米国国内の供給不足や高値につながり、同社の小売り向け価格に影響を与えた。同社は肉牛の供給と価格の状況が好転するまでは処理頭数を削減すると発表している。また「カナダと日本の早期の解禁を期待しているが、日本が米国産牛肉輸入解禁の条件を緩和しても、豚肉とオーストラリア産牛肉に奪われた日本市場のシェアを取り戻すには長期戦になる。カナダ市場が予定通り解禁され取引が早急に正常化すれば、米国内の価格は下がると期待している」と述べている。

※2005年1月14日 Meatingplace.com

**イベント情報**

★**USMEF「アメリカンポークで受験に勝つ栄養管理セミナー」開催**

米国食肉輸出連合会は、1月18日(火)、さいたま市にて受験に勝つためのアメリカンポーク料理セミナーを開催した。会場では、ハーバード大学卒のタレント、パトリック・ハーマンさんが自身の体験に基づく学習方法や米国の受験事情などを話し、栄養管理士の竹内富貴子先生が栄養面の注意事項などを説明した。また、アメリカンポークを使った受験必勝レシピなどを紹介した。